

平成 24 年度 第 2 回理系チャレンジ講座を実施しました

第 2 回理系チャレンジ講座が、2012 年 6 月 6 日、「現代世界を支える微細な世界～半導体とナノテクノロジー」というテーマで、本学工学部の益子洋治教授によって行われました。遠隔配信された大分雄城台・大分鶴崎・安心院(あじむ)・日田・中津南の 5 校(114 名)と、来学した高校臼杵・大分工業の 2 校(37 名)を合わせて、計 151 名の高校生が受講しました。

今回の講座は、LSI の実物を見ることから始まりました。半導体の技術は、真空管、トランジスタ、集積回路(IC)と発展してきましたが、それらの実物に加え、研究者の写真が数多く紹介され、高校生にもわかりやすい内容でした。

最近話題となっているスーパーコンピューター「京」も授業で取り上げられました。高校生もその名前は良く知っていましたが、今後の更なる技術革新が進んでも、デスクサイズで「京」と同レベルを実現することは不可能かも知れないとの説明を聞いて、高校生は「京」の先進性に改めて驚いていました。

最後に、これからの情報社会の姿について説明がありました。近年、「いつでも、どこでも、何でも」がコンピューターを初めとしたネットワークにつながる社会を「ユビキタス社会」と呼んでいますが、ユビキタス社会の次の段階の情報社会として、「アンビエント社会」という言葉が使われはじめました。アンビエントとは、英語で「周辺の」とか、「取り巻く」といった意味をもっています。すなわち、人間を取り巻くあらゆる場所に IT 機器が存在し、利用者が意識しない形でそれらのサービスを使う「アンビエント社会」がやってくると説明されました。

受講後のアンケート調査では、「総合的に判断して良かった」(85%：「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ)、「教員は真剣に取り組んでいた」(97%)、「授業内容は興味あるものであった」(84%)、「板書(スライド)は適切だった」(90%)、「受講生は授業に意欲的に取り組んだ」(88%)と高い評価結果がでました。遠隔配信については、「音声は良く聞こえた」(43%)、「映像はよく見えた」(75%)という結果がでており、対話や画面の工夫など今後改善していく箇所が明らかになりました。

受講生の具体的な声として、「ナノテクノロジーに興味があった」「工学系大学に進学したい気持ちが一層強まった」「内容は少し難しいところがあったが、大学の授業を体験でき先生の真剣さが伝わってきた」「アンビエント社会が早く到来して欲しい」「情報社会の未来に興味をもった」「他校生とも意見交換などがしたい」など多くの感想が寄せられ、受講生が「次世代」を意識できた講座になりました。

